YCAM15周年記念

平成30年度

山口情報芸術センター　事業報告書

～「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセス～

令和元年9月
公益財団法人　山口市文化振興財団

本報告書は、「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセスと題して、平成30年度の山口情報芸術センターの事業活動を体系別にとりまとめたものです。

そこには、多くのアーティストとの関わり、作品紹介を通した人々の交流・対話、様々な反響と新たな感動など、この山口の地から発信できた、ひとつひとつの成果があります。

今後も、この施設でさまざまな人々が出会い、対話し、新たな情報芸術の創造と発信の拠点となることを目指し、事業展開を図ってまいります。

ご覧いただき、ご感想、ご意見などをお寄せいただければと思います。

また、この場をお借りして、事業に関わってくださったアーティスト、ボランティア、体験・参加者、観劇者等すべての方々に、深く感謝申し上げます。

令和元年9月
山口情報芸術センター
館長　増田　肇

目　　次

平成30年度山口情報芸術センター収支決算 …… 2
平成30年度山口情報芸術センター組織図 …… 2
平成30年度山口情報芸術センター事業概要 …… 3
[1] アート …… 4
[2] 教育普及 …… 14
[3] 地域開発事業 …… 18
[4] ラボ …… 20
[5] シネマ …… 24
[6] 主な貸館事業 …… 34
[7] 施設利用状況 …… 34
[8] その他特記事項 …… 34
主な関連新聞記事 …… 35
(参考資料)山口情報芸術センターの活動成果 … 45

平成30年度 山口情報芸術センター収支決算

山口情報芸術センターの収支決算は、施設維持管理費と自主事業費に大別されます。
自主事業費は、次頁からの事業実施経費で、当財団会計処理規程によるものを各事業体系に合わせ整理、表現したものです。

1　施設維持管理費

（支出の部）

科　目	決 算 額 (円)
施設費	177,835,244

*主な支出は、
①市立図書館を含めた施設全体に係る電気･ガス･上下水道の光熱水料費（54,068千円）
②施設全体に係る清掃･空調設備等保守業務委託料、スタジオに係る舞台機構等の保守業務委託料などの保守管理経費（85,170千円）です。
*この財源は、山口市からの施設管理運営委託料、雑収入です。

2　自主事業費

（収入の部）

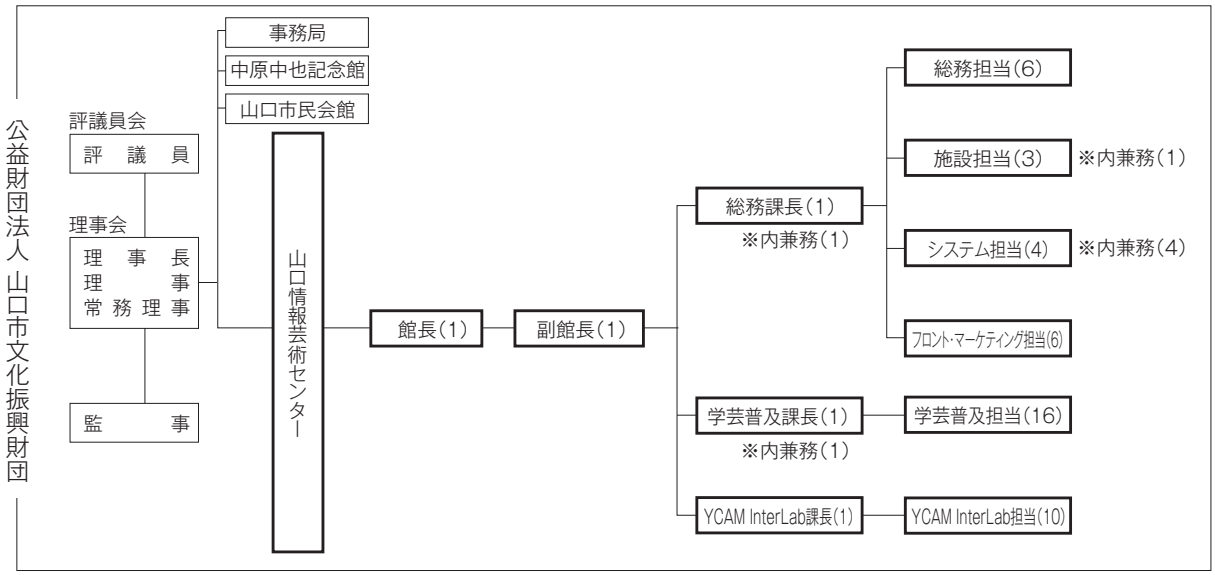
科　目	決 算 額 (円)	備　　考	構成比(%)
チケット収入等	10,999,100	演劇・ダンス等公演・映画に係る入場料収入	3.8
助成金収入	14,535,950	文化庁等による助成金	2.6
雑収入等	13,693,685	ワークショップ参加料、カタログ等販売手数料、業務委託料等	4.3
補助金等収入	286,617,338	山口市からの自主事業実施に係る補助金、委託金	89.3
合　計	325,846,073		100

*チケット収入は収入全体の3.8%ですが、演劇等公演のチケット料金の安価設定やアート事業展覧会の入場無料など、鑑賞機会の創出に主眼を置いた取り組みをしています。

（支出の部）

科　目	決 算 額 (円)	備　　考	構成比(%)
人件費	143,604,293	市派遣職員・専門員・副専門員・常勤職員等の人件費	44.1
アート	58,088,487	アート企画展、ダンス・パフォーマンス公演等に係る経費	17.8
教育普及	25,858,138	ワークショップ、レクチャー等に係る経費	7.9
地域開発	10,236,783	調査活動、ワークショップ等に係る経費	3.1
シネマ	22,636,897	シネマ上映等に係る経費	7.0
ラ　ボ	12,480,879	研究開発等に係る経費	3.8
共通事業費等	52,940,596	広報費、研修費、アーカイブ、旅費等その他経費	16.3
合　計	325,846,073		100

平成30年度山口情報芸術センター組織図（平成30年4月1日現在）※職員数43人



平成30年度 山口情報芸術センター概要

1　山口情報芸術センターについて

山口情報芸術センター（Yamaguchi Center for Arts and Media）通称「YCAM（ワイカム）」は、展示空間のほか、映画館、図書館、ワークショップ・スペースなどを併設したアートセンターです。2003年11月1日の開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に活動しており、展覧会や公演、映画上映、ワークショップなど、多彩なイベントを開催しています。

現在、私たちを取りまく社会では、コンピューターや通信技術、映像などによる「メディア・テクノロジー」が目まぐるしいスピードで進化しています。これにより、私たちの生活はあらゆる局面で情報化が進み、コミュニケーションのあり方も大きく変わりつつあります。

こうした変化は、経済活動や社会構造の変化へとつながり、「情報化社会」や「グローバル社会」などと呼ばれる、人類がかつて体験したことのない社会的状況をつくり出しました。またその変化は、個人レベルの身体感覚やリアリティ、想像力にも影響を及ぼし、それらを基盤とした新しい表現が世界中で生み出されています。

YCAMは、このような背景のもとに生まれた新しいスタイルのアートセンターです。

市民やさまざまな分野の専門家とともにつくり、ともに学ぶことを活動理念としながら、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方、文化基盤としての情報の可能性、さらには人間にとっての情報の意味について、幅広いアプローチで探求をおこなっています。

また、近年ではアートの視点から地域の魅力を掘り起し、新たなつながりや価値を創出し、文化振興の枠を超えてまちの賑わいや中山間地の振興などの地域課題にも取り組んできました。

そして、この過程で生み出される表現や学びを世界に向けて発信し、次世代を担う人材の育成に寄与することを目指しています。

今後も「R&D（研究開発：Research & Development）プロジェクト」と呼ばれる形態を中心に、「YCAMでなければ生み出せないオリジナル作品の制作」「メディア・テクノロジーと市民をつなぐ教育プログラムの提供」、「地域の課題や資源とメディア・テクノロジーの融合」の3点を重視しながらさまざまな事業を実施していきます。

2　事業の概況

平成30年に開館15周年を迎えたYCAMでは、この節目の年に、「良識」や「分別」だけでなく、極端に偏らない柔軟な思考を意味する「中庸」という意味も含む言葉「グッドセンス」をテーマに、事業を展開しました。

「コロガル公園コモンズ」をはじめ、これまでYCAMが展開してきたイベントシリーズの最新版を開催したほか、「YCAM爆音映画祭」を過去最大規模で開催。また、新たな試みとして外部からキュレーターを迎えて2つの展覧会を開催しました。他にも国際的なコラボレーションによる新作ダンス公演、バイオ・テクノロジーの応用可能性を実践的に学ぶ集中ワークショップなど、近年の研究開発の成果を体感していただけるイベントを開催しました。

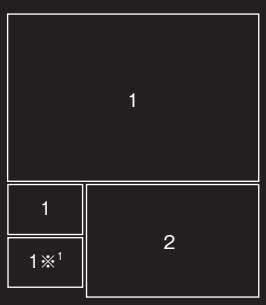
こうしたイベントを通じて、YCAMが掲げる「ともにつくり、ともに学ぶ」という活動理念の実現を目指すとともに、次世代を担う人材の育成を進めました。

3　各事業総括表

事業区分	事業数	入場者数（名）
［1］アート	6	16,252
［2］教育普及	5	50,677
［3］地域開発	3	5,338
［4］ラボ	2	1,101
［5］シネマ	6	13,669
［6］貸館（件数）	33	6,166
合　計	55	93,203

＊［1］アート事業には、パフォーミングアーツ事業も含みます。
＊事業区分・事業数の詳細については、次頁からの個別事業(実施月順)の内容をご覧下さい。

[1] アート ART



1　エキソニモ +YCAM 共同企画展 メディアアートの輪廻転生
撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1 ※[1]　●オープニングトーク　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

2　sound tectonics#21 NON-OPTIMIZED SOUND　撮影：谷康弘

1　エキソニモ+YCAM共同企画展
メディアアートの輪廻転生

開催日:7月21日(土)～10月28日(日)
会場:YCAMホワイエ
入場者数:8,257名(無料)
参加アーティスト:岩井俊雄、エキソニモ、江渡浩一郎、高嶺格、徳井直生、八谷和彦、藤幡正樹、ラファエル・ロサノ=ヘメル、ナムジュン・パイク

アートユニット・エキソニモを共同キュレーターに迎え展覧会を開催しました。
メディアアートは多くの場合、映像・音響機材などを作品に含むため、故障など作品を未来に残す上で多くの困難を抱えています。本展では、YCAMと関わりが深い100名を超えるアーティストに実施したアンケートを元に、従来の作品保存とは異なる視点で、作品の「死」について考え、さらに「転生」させて未来に伝える可能性を模索しました。古墳のような形状をした展示空間「メディアアートの墓」の中に、アーティストの「死」を迎えた作品群を展示。展覧会を通して、作品の寿命や未来について思いを馳せ、芸術表現をはじめとする「文化」を創造的に継承する新たなかたちを考える機会を創出しました。

●オープニングトーク

開催日:7月22日(日)
会場:YCAMホワイエ
入場者数:84名(無料)
セッション1／登壇:千房けん輔(エキソニモ)、吉崎和彦(YCAM)
セッション2／登壇:柿沼敏江、原田郁夫　モデレーター:明貫紘子
セッション3／登壇:岩井俊雄、江渡浩一郎、高嶺格、藤幡正樹、明貫紘子　モデレーター:千房けん輔

オープニングを記念してトークイベントを開催しました。

●メディアアートの亡霊

開催日:10月13日(土)
会場:YCAMホワイエ
入場者数:102名(無料)
出演:梅田哲也

展覧会場に建造された「メディアアートの墓」を舞台に、「うた」と「伝承」をテーマにした音響パフォーマンスを実施しました。YCAMキュレーターやエキソニモの朗読に始まり、参加アーティストの語りなど様々な儀式を行い、一度墓に葬られた作品たちを現世に召喚しました。

2　sound tectonics#21
NON-OPTIMIZED SOUND

開催日:7月21日(土)
会場:YCAMスタジオA
入場者数:184人(前売一般2,500円他)
出演:goat、悪魔の沼、パードン木村

国内外の最先端のサウンド・アート、音楽表現を紹介するライブコンサートシリーズの第21弾として、3組のミュージシャンによるライブ・コンサートを開催しました。
今回出演した3組はそれぞれ一様にカテゴライズできない、明確なビジョンと突出したオリジナリティをもったミュージシャンです。深みを目指し強度ある音楽を試みる彼らのステージを、YCAMが誇る音響環境でお楽しみいただきました。

[1] アート ART

3

4 4

3　グルーポ・ヂ・フーア ダンス公演 イノア　撮影：守屋友樹

4　sound tectonics#22　Label CAMP　撮影：谷康弘

3　グルーポ・ヂ・フーア ダンス公演 イノア

開催日:9月1日（土）、2日（日）計2回公演
会場:YCAMスタジオA
入場者数:計351名（前売一般:2,500円他）
出演:グルーポ・ヂ・フーア

「ストリートダンス」をベースに、その常識やスタイルを解体し、スリリングな劇場作品へと生まれ変わらせたことで世界的に高い評価を受けている、ブラジルを拠点に活動するダンスカンパニー、グルーポ・ヂ・フーアの最新作を上演しました。圧倒的なダンス技術に加え、世界各地の都市が抱えている分断や対立といった社会的なテーマを掲げて挑んだ本作は、ダンスが持つ爆発的なエネルギーとともに、ストリートダンスとは何かという批評性を同時に提示しました。

●ダンスバトル in コロガル公園コモンズ

開催日:9月2日（日）
会場:YCAMスタジオB
参加者数:215名（無料）

グルーポ・ヂ・フーアのメンバーと参加者が、同時開催中の子どもの遊び場「コロガル公園コモンズ」を会場に、音楽に合わせてお互いの技を競い合うダンスバトル形式のイベントを実施しました。

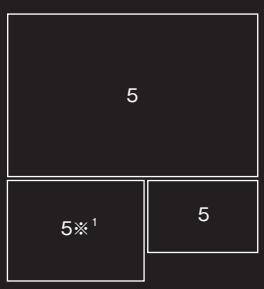
4　sound tectonics#22 Label CAMP

開催日: 10月6日（土）
会場:YCAMスタジオA
入場者数:181名（前売一般3,000円他）
出演:KILLER-BONG、近藤等則、ZVIZMO、中山晃子、JAZZ DOMMUNISTERS、SPANK HAPPY

国内外の最先端のサウンド・アート、音楽表現を紹介するライブコンサートシリーズの第22弾として、音楽における実験場としての「レーベル」にフィーチャーしたライブコンサートを開催しました。縦横無尽な動きを見せる、BLACK SMOKER RECORDSとTABOO LABELの2つの音楽レーベルからそれぞれ2組のアーティストが出演しました。
またライブ翌日には、「YCAMオープンラボ2018 グッドセンスなラボ」プログラムの一つであるショートトークセッションに、レーベル主宰者が参加しました。

●ショートトークセッション

詳細はP21



5　マーク・テ＋ YCAM 共同企画展 呼吸する地図たち　撮影：谷康弘

5 ※1　●パフォーマンス「通訳を手伝ってくれませんか？」　撮影：田邊アツシ

●レクチャーパフォーマンス「アジア・ザ・アンミラキュラス」　撮影：田邊アツシ

5　マーク・テ+YCAM共同企画展
呼吸する地図たち

開催日: 12月15日（土）～平成31年3月3日（日）
会場:YCAMホワイエ、スタジオB、2階ギャラリー
入場者数:6,264名（無料）

ゲスト・キュレーター:マーク・テ
アーティスト／リサーチャー:イルワン・アーメット&ティタ・サリナ、カルロス・セルドラン、チ・トゥー、ファリッシュ・ヌール、ジャネット・ピレイ、ヴァンディ・ラッタナー、オクイ・ララ、ホー・ルイアン、小原真史、志賀理江子+清水チナツ+長崎由幹、高山明、西尾佳織、古市保子、やんツー、3がつ11にちをわすれないためにセンター（せんだいメディアテーク）

マレーシアを拠点に活躍する演出家のマーク・テをゲスト・キュレーターに迎え、近代以降における地図と国民意識を巡る展覧会を、国際交流基金アジアセンターのCondition Reportの一環として、共同主催のもと開催しました。
近代化の象徴的産物としての「地図」は、アジアにおいて国家の主権、文化、経済、そして日常生活の劇的な変容を表出し、近代特有の空間概念や共同体意識を生み出す視覚的装置として機能してきました。
本展では、東南アジアと日本のアーティストやリサーチャーたちが、それぞれの視点から各国の歴史、文化、政治、経済、具体的な日常生活など、幅広い社会的事象を捉え、自身の言葉によって語るレクチャーやパフォーマンスを多数開催したほか、映像作品やインスタレーション作品も公開しました。明治維新から150年の節目を迎えた平成30年、近代化の起点の一つともなった山口において、新たな「地図」を描き出しました。

●パフォーマンス

・「カット・グラス・ピース（草を刈る作品）」チ・トゥー／12月15日（土）、16日（日）
・「通訳を手伝ってくれませんか?」オクイ・ララ／平成31年1月19日（土）

●レクチャー・パフォーマンス

・「アジア・ザ・アンミラキュラス」ホー・ルイアン／12月15日（土）、16日（日）
・「なぜ私はここにいて、彼女たちはあそこにいるのか～からゆきさんをめぐる旅～」西尾佳織／12月22日（土）
・「ネーム・ロンダリング」イルワン・アーメット&ティタ・サリナ／平成31年1月12日（土）
・「アジアを歩くJalan-jalan di asia」古市保子（演出:マーク・テ）／平成31年2月24日（日）

●レクチャー

・「知るべきことは何もない:トーマス・ラッフルズ ジャワの地図と帝国認識論」ファリッシュ・ヌール／12月16日（日）
・「人類館と博覧会」小原真史／12月22日（土）
・「マッピング・カルチャー:変化の理解とマネージング」ジャネット・ピレイ／平成31年1月26日（土）
・「ヒューマン・スプリング」志賀理江子+清水チナツ+長崎由幹／平成31年2月23日（土）

●リサーチ・ワークショップ

・「海賊スタディ」高山明／平成31年2月9日（土）～11日（月）3日間通し

●映像ドキュメント上映

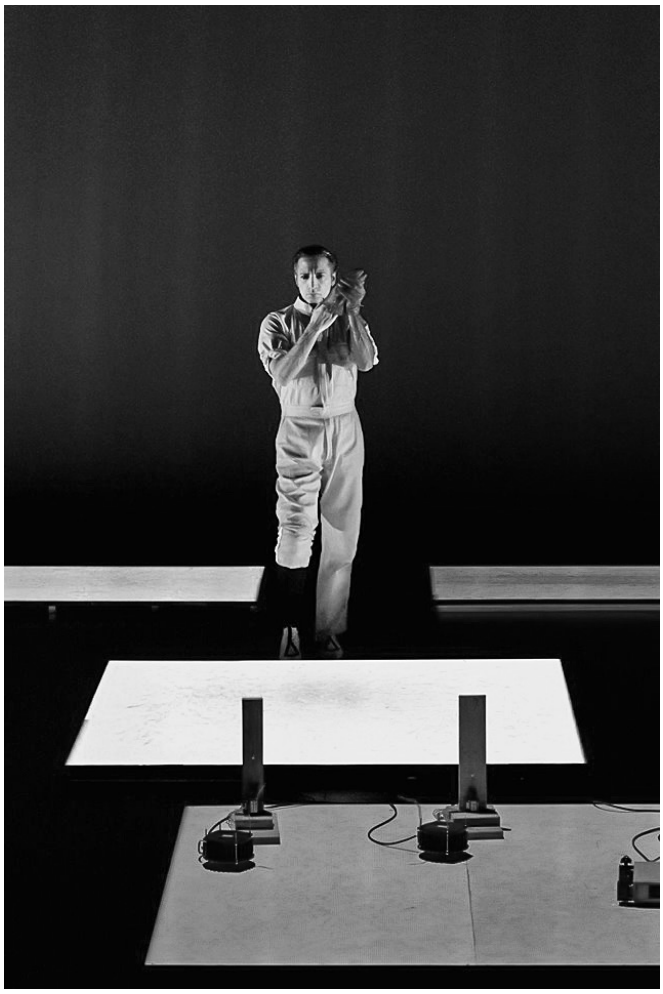
・「イントラムロス・パフォーマンス・ツアー『Walk This Way』」カルロス・セルドラン／12月17日（月）～平成31年3月3日（日）

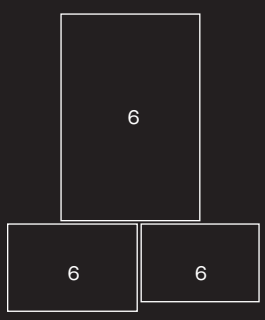
●通期展示

・「ピカ-boo」チ・トゥー
・「独白」ヴァンディ・ラッタナー
・「アジア・ザ・アンミラキュラス」ホー・ルイアン
・「Urbanized Typeface」やんツー
・3がつ11にちをわすれないためにセンター（せんだいメディアテーク）展覧会「記録と想起・イメージの家を歩く」より
「波のした、土のうえ」小森はるか+瀬尾夏美
「沿岸部の風景」鈴尾啓太
「沿岸部の風景記録」藤井光

●その他

・「キュレーターズ・レクチャー」マーク・テ、井高久美子／12月15日（土）





6　イスラエル・ガルバン＋ YCAM 新作ダンス公演　Israel & イスラエル
撮影：守屋友樹

6　イスラエル・ガルバン+YCAM新作ダンス公演 Israel & イスラエル

開催日:平成31年2月2日(土)、3日(日)計2回公演
会場:YCAMスタジオA
入場者数:計475名(前売一般3,000円他)

スペインのフラメンコダンサー、イスラエル・ガルバンとおよそ2年の歳月をかけて共同制作を進めた新作ダンス公演を発表しました。
本公演ではガルバンの足を使ってリズムを刻むテクニックを、AI(人工知能)に学習させ、ガルバンの特徴を持ったもう一人の「イスラエル・ガルバン」が本人と競演することで、ガルバンの天才性をこれまでにないアプローチで明らかにしました。
伝統の上に革新を遂げてきたフラメンコの魅力に触れるだけでなく、生活の中にさまざまなテクノロジーが存在する今、私たちとテクノロジーの間で生み出される新たな創造的な関係が垣間見える作品となりました。

●ポストトーク

開催日:平成31年2月2日(土)、3日(日)両日公演後
会場:YCAMスタジオA
登壇:2月2日／徳井直生、竹下暁子(YCAM)、大脇理智(YCAM)、中上淳二(YCAM)
　　2月3日／イスラエル・ガルバン、港千尋

●レクチャー「いま知っておきたいフラメンコのすべて」

開催日:11月10日(土)
会場:YCAMコミュニティ・スペース
入場者数:47名(無料)
講師:ミゲル・アルバレス・フェルナンデス

フラメンコの音楽の現代的文脈について、音源を豊富に紹介しつつ、その起源や歴史的変移を紐解くレクチャーを開催しました。

●レクチャー「もっと楽しいフラメンコ」

開催日:平成31年2月2日(土)、3日(日)
会場:YCAMホワイエ
入場者数:47名(無料)
講師:MIYO

公演をもっと楽しむために、フラメンコのパルマ(手拍子)、ハレオ(掛け声)について学ぶレクチャーを公演前に実施しました。

●YCAM探検ツアー

開催日:平成31年2月2日(土)、3日(日)
会場:YCAMコミュニティ・スペース
参加者数:45名(無料)

展覧会やパフォーミングアーツの公演など、YCAMで開催されるイベントの多くはYCAMオリジナルのものです。一体その裏側ではどんなことが起こっているのか、「YCAMの工場」とも言えるバックヤードを探検するツアーを実施しました。

[1] アート

山口情報芸術センターを会場とした全国巡回作品の山口公演開催に際して、YCAM InterLabが技術協力で参加した舞台公演をご紹介します。

●不思議の国のアリス

主催:公益財団法人山口市文化振興財団
企画制作:KAAT神奈川芸術劇場
共催:認定NPO法人こどもステーション山口
開催日:8月8日（水）、9日（木）計3回公演
会場:YCAMスタジオA
入場者数:計610名（前売おとな3,000円他）
出演:森山開次、辻本知彦、島地保武、下司尚美、引間文佳、まりあ

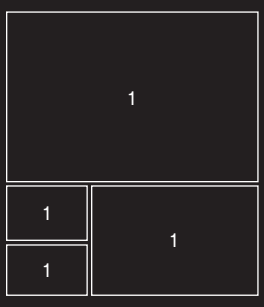
ルイス・キャロル原作の物語「不思議の国のアリス」を、ダンサー・振付家の森山開次が演出した作品を上演しました。いままでにない「アリス」の世界を表現し、子どもから大人まで多くの観客を魅了しました。またプレイベントとして森山開次によるダンスワークショップもおこない好評を博しました。

●地点「忘れる日本人」

主催:公益財団法人山口市文化振興財団
企画制作:山口情報芸術センター［YCAM］
製作:KAAT神奈川芸術劇場、合同会社地点
開催日:平成31年2月16日（土）、17日（日）計2回公演
会場:YCAMスタジオA
入場者数:計260名（前売一般3,000円他）
出演:安部聡子、石田大、小河原康二、窪田史恵、小林洋平、田中祐気、黒澤あすか

京都に拠点を置き国内外で精力的に活動する劇団「地点」が、KAAT神奈川芸術劇場と共同制作した作品を、YCAMが作り出す濃密な舞台空間で上演しました。

[2] 教育普及 EDUCATIONAL



1　未来の山口の授業　at YCAM

●森の DNA 図鑑

1　未来の山口の授業 at YCAM

会場:YCAMコミュニティ・スペース

「未来の山口の授業」とは、メディア・テクノロジーの応用に関するYCAMの豊富な知見を活かして、地域の連携のもと、小中学校で実施可能な教育プログラムの開発をおこなうとともに、次世代に向けた新たな教育モデルとして全国に発信していくプロジェクトです。
その中でも、「未来の山口の授業 at YCAM」とは、今までに開発してきたワークショップをYCAM館内で実施する取り組みです。今年度は、厳選した3つのプログラムを実施しました。

●感覚アスレチック

開催日:6月16日(土)～7月15日(日)の内、計8回
参加者数:78名(無料)

わたしたちの身体が持つ特性を把握し、「空間と動き」の関係性について学ぶワークショップ。

●コトバ身体

開催日:8月18日(土)～9月9日(日)の内、計8回
参加者数:41名(無料)

身体の動きをコンピューターに取り込み、自分の思いついた言葉と組み合わせて登録していくことで、言葉と身体の新たなつながりを生み出していくワークショップ。

●森のDNA図鑑

開催日:10月20日(土)、27日(土)2日間通し／10月21日(日)、27日(土)2日間通し
参加者数:20名(無料)

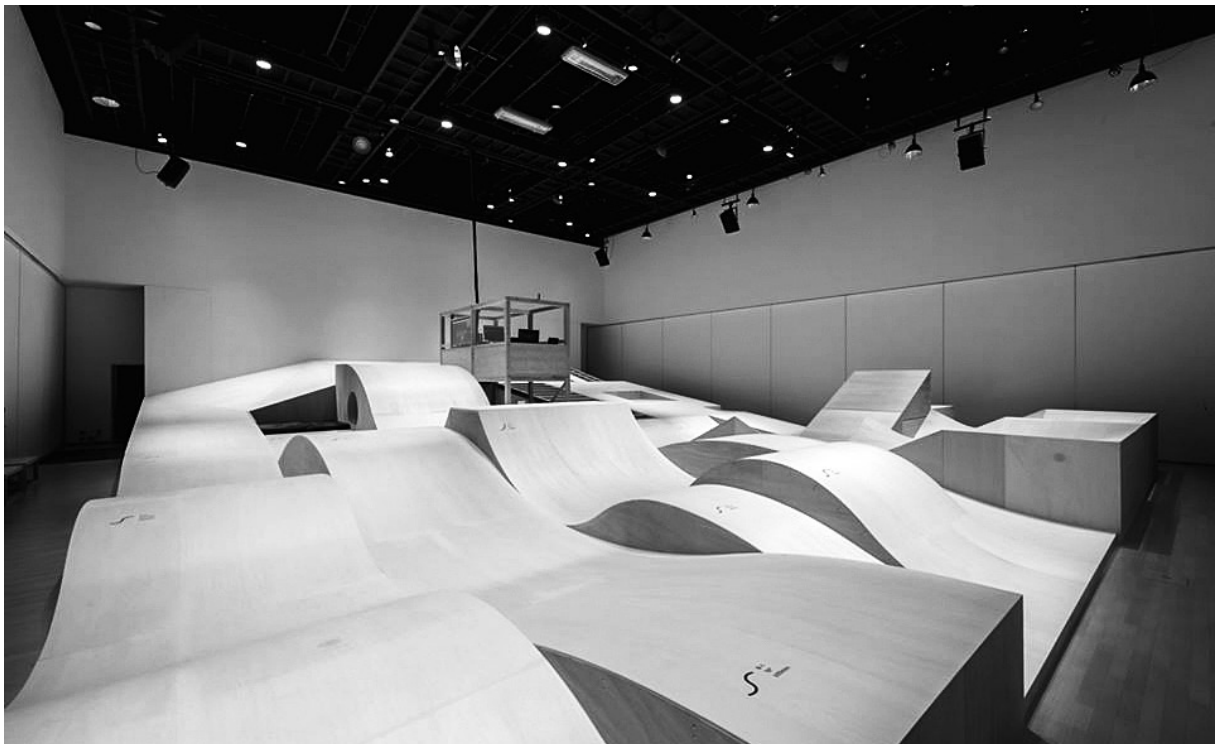
DNA解析技術を使って、オリジナルの植物図鑑をつくるワークショップ。

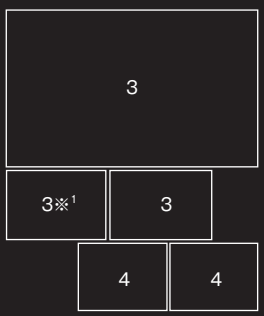
2　スポーツハッカソン for Kids

開催日:6月12日(火)
会場:柚野木小学校
参加者数:29名(無料)

児童がいくつかのチームに分かれて、協働して新しいスポーツを開発し実践するイベントを実施しました。スポーツを生み出す創造力や、身体運動に落とし込む論理的な思考力を育むとともに、YCAMが長年培ってきたメディアアートを軸とする技術やノウハウを体感することとなり、山口市の教育に他地域とは異なる特異性を付加する取り組みとなりました。
なお、本事業は山口市徳地地域の小学校4校の交流学習の一環として実施されました。

[2] 教育普及 EDUCATIONAL





3　コロガル公園コモンズ　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

3※1　●子どもあそびばミーティング　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

4　YCAM 情報社会見学　撮影：田邊アツシ

3　コロガル公園コモンズ

開催日:7月21日（土）～10月28日（日）
会場:YCAMスタジオB、2階ギャラリー
参加者数:50,127名（無料）

メディアテクノロジーを駆使した子ども向けの遊び場環境「コロガル公園シリーズ」の最新版を実施しました。
「コロガル公園シリーズ」は子どもたちが遊びを通じて考え、想像力を育む環境として、YCAMが平成24年から開発・発表している公園のシリーズです。
特徴的な形状の床面には、スピーカーや映像などのメディアテクノロジーが随所に埋め込まれており、子どもたちが遊びを発想するための「種」として機能します。
本作では、従来のシリーズに共通する機能や特徴を受け継ぎつつも、新たな方向性として「共有地（コモンズ）」としての可能性を探求しました。これまでも利用者の子どもたちが運営を補助するなど能動的な関りを持つ姿が数多く見受けられており、今回はこうした流れに着目し、コロガル公園シリーズが持つ社会の共有財産としての側面に焦点を当て、シリーズが地域社会に与えた影響を検証し、文化として継承・発展するための視点を提示しました。

●子どもあそびばミーティング

開催日:8月5日（日）、9月9日（日）計2回
会場:YCAMスタジオB
参加者数:25名（無料）

コロガル公園コモンズを利用する子どもたちとYCAMのスタッフが、コロガル公園コモンズをより良くするためのアイディアについてディスカッションするイベントを実施しました。
ここで生まれたアイディアのうち優れたものは、YCAMスタッフによってコロガル公園コモンズに実装されました。

4　YCAM情報社会見学

開催日:平成31年2月9日(土)～3月17日（日）の内、計8日
会場:YCAM館内各所
参加者数:101名（無料）

情報社会に欠かせない技術などを、YCAMがこれまでに制作した作品の紹介を通して体験する参加型のイベントを開催しました。話題のテクノロジー「VR」に注目し、装置や仕組みを学んだ上で、YCAMがこれまでに「VR」を使用して制作したコンテンツを体験するなど、その制作をおこなう現場である、施設の裏側を探検するなどYCAMの秘密を探る機会となりました。

5　YCAM情報社会見学（学校向け）

開催日:通年
参加者数:10校（計256名）（無料）

「YCAM情報社会見学会」を学校、教諭向けに改良し、実施しました。その結果、市内の教諭からの本プログラムの活用が増え、より多くの児童にYCAMがおこなう教育プログラムを届けられることとなりました。

[3] 地域開発事業

1 YCAM スポーツハッカソン 2018　撮影：塩見浩介

2 第３回未来の山口の運動会　撮影：塩見浩介

3 RADLOCAL Practice vol.1　ひと口から考える食のエコシステム
スタジオ D　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1　YCAMスポーツハッカソン2018

開催日:5月4日（金・祝）～6日（日）※3日間通し
会場:YCAMスタジオA
参加者数:50名（3,000円他）
講師:西翼、犬飼博士、米司隆明、岩谷成晃
ゲストデベロップレイヤー:岸野雄一、contactGonzo、菅野創

研究開発プロジェクト「YCAMスポーツ・リサーチ・プロジェクト」の一環としてメディア・テクノロジーを駆使して新しいスポーツのアイデアを実現する3日間の合宿を開催しました。
参加者は、「開発（デベロップ）」と「実践（プレイ）」を繰り返す「デベロップレイ」と呼ばれる制作手法を中心に、2日間にわたって運動会競技を開発し、最終日には開発した競技を楽しむ運動会を開催しました。協議の開発に使用するツールは運動会でおなじみのもののほかに、YCAMが開発したハイテクなツールも登場。さらに今回は特別に3組のアーティストが参加し、他の参加者とともに運動会競技の開発に挑みました。

2　第3回未来の山口の運動会

開催日:5月6日（日）
会場:YCAMスタジオA
参加者数:215名（無料）
MC:西垣峻宏

「YCAMスポーツハッカソン2018」で開発された運動会競技を体験する運動会を実施しました。学校や地域でおこなわれる運動会とは一味違う、誰も体験したことのない未来の運動会をお楽しみいただきました。

3　RADLOCAL Practice vol.1
ひと口から考える食のエコシステム　スタジオD

開催日:7月21日（土）～平成31年3月17日（日）
会場:YCAMスタジオD
参加者数:5,073名（有料）

本事業は、食にまつわるさまざまな情報を食べることを通して学ぶ場を提供しました。利用者自身がハンバーガーに挟む食材を選び、オリジナルのハンバーガーを考え、食べ比べる「カスタムハンバーガーワークショップ」や、野菜、果物、調味料、スパイスなど100種類の粉末から、フライドポテトのトッピングパウダーを組み合わせ、新しい味覚を探求する「フードパウダーミュージアム」のほか、食品の製造工程や、利用者から生産者へのお金の流れを理解するためのコンテンツの開発を行いました。

●YCAMショップ

スタジオD内にあわせてショップを併設し、「持ち帰れるYCAM、触れるYCAM」をテーマに、YCAMの魅力を「商品」という形で発信しました。

[4] ラボ LAB

1　YCAMオープンラボ2018　グッドセンスなラボ

開催日:10月6日(土)～8日(月･祝)
会場:YCAM館内各所
参加者数:1,073名(無料)

YCAMの研究開発活動を体験できる複合型のイベントを、昨年に引き続き開催しました。今回は、YCAMのあらゆる活動を開館当初から支え特徴づけてきた「ラボ」の機能に注目しました。これまでYCAMは「メディアの可能性」を切り開くべく、変化の激しい現代社会で、既成概念にとらわれず常に思考や手法を変え、挑戦し続けてきました。その結果、多方面で高い評価を得てきました。
YCAMと同じくラボの機能を持ちながら、世の中に影響を与えてきた国内外のラボを招き、その活動から広がる創造性や未来について語り合う場を創出しました。

●トークセッション

YCAMによるオープニングプレゼンテーションと3本のトークセッションをおこないました。2つのサブテーマに沿って国内外のラボからゲストを招聘し、ゲストによるプレゼンテーションと、YCAMスタッフとのディスカッションを通して「これからのラボ」の姿を描きました。

○オープニングプレゼンテーション
開催日:10月7日(日)
登壇:伊藤隆之(YCAM)、菅沼聖(YCAM)

○グッドセンスがつなげるコミュニティ
開催日:10月7日(日)11:30～13:00
ゲスト:ソニーコンピュータサイエンス研究所／アレクシーアンドレ、本條陽子、Dentsu Lab Tokyo／菅野薫
人の輪の広がりや異種をつなげるアイディアに着目したラボを迎え、「コミュニティを押し広げるコンテンツづくり」などについて議論しました。

○グッドセンスを育むエデュケーション
開催日:10月8日(月･祝)10:30～11:45
ゲスト:エクスプロラトリウム(米国／サンフランシスコ)／ポール･ダンステップ、School For Poetic Computation(SFPC)(米国/ニューヨーク)／チェ･テユン
教育に関するさまざまな挑戦を続けるラボを迎え、「教育コンテンツの開発について」「今、目指す学びのかたち」について議論しました。

○グッドセンスをめぐるクリエイション
開催日:10月8日(月･祝)16:15～17:30
ゲスト:アルスエレクトロニカ(オーストラリア／リンツ)／小川秀明、ライゾマティクスリサーチ(日本／東京)／真鍋大度、石橋素
チームでアート作品制作を行うラボを迎え、「クリエイションにおけるグッドセンス」について話し合い、「アートに携わるラボが持つべきセンス」を議論しました。

●ラウンジセッション

開催日:10月7日(日)、8日(月･祝)
各トークセッション後に開催し、ゲストと直接話したり意見交換できるなど、より近い距離でコミュニケーションできる場を提供しました。

●ショートトーク

トークセッションとは一味ちがう視点からYCAMの「ラボ機能」を考えるトークを行いました。10月6日のライブ出演者による「音楽」と、YCAM Film Factory vol.4「ワイルドツアー」の三宅唱監督らによる「映画」のセッション2本を実施しました。

○音楽

開催日:10月7日(日)
登壇:伊藤篤宏、大谷熊生、菊地成孔、JUBE、石川琢也(YCAM)、城一裕(YCAM)

○映画

開催日:10月8日(月・祝)
登壇:三宅唱、小林功弥、藤原緑、山崎隆正、杉原永純(YCAM)、今野恵奈(YCAM)

●ゲスト紹介展示

今回招いた国内外のラボの活動を、文章や映像、一部は成果物に実際に触れられる体験展示を通して紹介しました。

●YCAM館内ツアー

開催日:10月7日(日)、8日(月・祝)計4回
「YCAMの工場」とも言えるバックヤードを探検するツアーを開催しました。

●映画上映

開催日:10月7日(日)、8日(月・祝)
上映作品:『オデッセイ』『ワイルドツアー』
YCAMオープンラボのテーマに沿って、実験や試行錯誤することの楽しみや達成感を味わえる作品と、YCAMの映画制作プロジェクト「YCAM Film Factory」の最新作を上映しました。

●Meet-Upパーティー

開催日:10月7日(日)
ゲストや来場者、YCAMスタッフなど、オープンラボに来たすべての方が一堂に会するパーティーを実施しました。

1　YCAM オープンラボ 2018　グッドセンスなラボ　撮影:田邊アツシ

1	1	1

2

2 2

2　YCAM InterLab Camp vol.3
パーソナル・バイオテクノロジー　撮影：田邊アツシ

2　YCAM InterLab Camp vol.3
パーソナル・バイオテクノロジー

開催日:平成31年3月1日（金）〜3日（日）3日間通し
会場:YCAMスタジオA
参加者数:28名（一般30,000円、大学生10,000円、高校生無料）
講師:セバスチャン・コシオバ、片山俊明、岩崎秀雄、フィリップ・ボーイング、赤田倫治、contactGonzo、会田大也、ベジタブル喫茶ToyToy、伊藤隆之（YCAM）、菅沼聖（YCAM）、高原文江（YCAM）、津田和俊（YCAM）

第一線で活躍する技術者や研究者を迎え、今後のメディアアート作品の制作に使用されるツールについて紹介し、国内外の参加者とともに学ぶ集中ワークショップシリーズの第3弾をおこないました。
バイオテクノロジーは近年、食や医療など、幅広い分野での応用が進んでおり、特にDNA解析やゲノム編集などの高度な技術を利用するためのコストが低下し、専門家でない、個人がバイオテクノロジーに触れる機会が増えています。YCAMでもこうした流れを背景に、平成27年よりバイオテクノロジーの新たな応用可能性を、アートや教育、コミュニティなど多様な切り口で模索する研究開発プロジェクト「YCAMバイオ・リサーチ」を立ち上げています。
本事業では、DNAに関わる技術による生命情報の「読み」「書き」「生命倫理」をテーマに、ワークショップやレクチャーを実施し、バイオテクノロジーのアート、デザイン、日常への応用可能性を模索するとともに、そのために必要となるツールやテクニックの共有、コミュニティの発展について考えました。

[5] シネマ CINEMA

1

3 3

1　YCAM Film Factory vol.4 三宅唱＋ YCAM「ワールドツアー」
撮影：田邊アツシ

3　真夏の夜の星空上映会　撮影：谷康弘

1　YCAM Film Factory vol.4
三宅唱+YCAM「ワールドツアー」

開催日:4月21日(土)～5月27日(日)
会場:YCAMスタジオB
入場者数:1,560名(無料)
アーティスト:三宅唱

映画制作プロジェクト「YCAM Film Factory」の第4弾招聘監督、三宅唱と共同で、記録された風景から新たな風景を発見するための眼差しを提示する、新作インスタレーション展を制作しました。
本展は、三宅と10数名の撮影者がスマートフォンの動画撮影機能で撮影した日常の映像を編集し、複数スクリーンに構成した作品です。半年以上に渡って山口を中心に世界各地で撮影されたそれらの映像を、さらに三宅が再編集することで、撮影者の視点でも編集者の視点でもない「誰のものでもない」視点を生み出しました。
当たり前のように移り行く日常に目を向け、世界をもう一度新しい視点から見つめ直す映像体験の提供となりました。

●オープニング・トークイベント

開催日:4月21日(土)
会場:YCAMスタジオB
入場者数:220名(ライブコンサート入場者含む／無料)
出演:樋口泰人、三宅唱

三宅唱が手掛ける映像日記「無言日記」が発表されているweb雑誌「boidマガジン」の編集長であり、全国の「爆音映画祭」を主宰する樋口泰人と、三宅唱によるトークを展示会場内で開催しました。

●オープニング・ライブコンサート

開催日:4月21日(土)
会場:YCAMスタジオB
出演:OMSB、Hi'Spec

三宅唱の盟友であるミュージシャンによるライブパフォーマンスを展示会場内で開催しました。

2　YCAM Film Factory vol.4
『ワイルドツアー』

公開日:8月10日(金)
出演者:伊藤帆乃花、安光隆太郎、栗林大輔ほか

「YCAM Film Factory」は、既存の映画制作にとらわれない自由な発想を持つ映画監督と協働し、YCAMに蓄積された横断的な知見と総合させ、より自由な映画制作のあり方を模索するプロジェクトです。
第4弾となる今回は、長編劇映画で知られる映画監督・三宅唱を招聘し、中高生たちの日常を描いた爽やかな青春映画を制作しました。三宅は約9か月間、山口市にて長期滞在制作を行いました。そして、出演した中高生は、出演者募集も兼ねてYCAMで開催した「中高生向け映画制作ワークショップ」の参加者です。撮影には台本をあえて用意せず、三宅が書いた簡単な指示書のみ。その場で出演者と共に物語を肉付けしていくという形式で行われました。三宅唱とYCAM、そして映画未経験の出演者が共に試行錯誤しながら一本の映画を作り上げました。

3　真夏の夜の星空上映会

開催日:8月10日(金)～8月12日(日)
会場:中央公園
参加者数:1,750名(無料)
上映作品:『ワイルドツアー』『SING／シング』『シング・ストリート 未来へのうた』

YCAMに隣接する中央公園の芝生の上で映画鑑賞をおこなう毎年恒例の上映会を開催しました。
今回は、幅広い年齢層に楽しんでいただける映画の上映の他に、YCAMプロデュースで制作した映画『ワイルドツアー』の世界初公開および舞台挨拶を実施しました。

[5] シネマ CINEMA

4

5

4　●ピンバンド、お盆ライヴ山口編

5　YCAM 爆音映画祭 2019 特別編：密室爆音

4　YCAM爆音映画祭2018

開催日:8月15日(水)～8月26日(日)
会場:YCAMスタジオA
参加者数:2,188名(前売一般1回券1,300円他)
上映作品:『バンコクナイツ(タイ公開バージョン)』『坂本龍一PERFORMANCE IN NEWYORK:async』『グレイテスト・ショーマン』『DEVILMAN crybaby』『バーフバリ伝説誕生』『バーフバリ王の凱旋』『バック・トゥ・ザ・フューチャー』他

高品質な大音量の中で映画を鑑賞することで、これまでにない映画体験を創造する「爆音映画祭」を開催しました。YCAMでは平成25年の開催以来、7回目となる今回は、11日間通して、往年の名作から話題の新作まで幅広いラインナップの全22作品を上映しました。会場には、スクリーンわきのラインアレイスピーカーをはじめ、天井、座席下、さらに座席後方にもスピーカーを約45台設置し、音楽ライブも十分可能な珠玉の上映環境で、日本最強の爆音映画祭をお楽しみいただきました。

●ピンバンド、お盆ライヴ山口編

開催日:8月15日(水)
会場:YCAMホワイエ他
入場者数:150名(無料)
出演者:クン・ナリンズ・エレクトリック・ピン・バンド、Soi48

『バンコクナイツ(タイ公開バージョン)』上映前に、劇中に登場し、冠婚葬祭や伝統行事での演奏など、タイのストリートで活動し、劇中にも登場するクン・ナリンズ・エレクトリック・ピン・バンドが、Soi48のDJとともに、YCAM館内を練り歩きながら生ライブを披露しました。

●『バンコクナイツ(タイ公開バージョン)』アフタートーク

開催日:8月15日(水)
会場:スタジオA
登壇:富田克也、相澤虎之助

上映終了後、本作の共同脚本を手掛けた二人によるアフタートークを開催しました。

●YCAM爆音映画祭2018バックステージツアー

開催日:8月17日(金)
会場:YCAMスタジオA、スタジオC
参加者数:46名(1,000円)

「爆音映画祭」主宰で映画評論家の樋口泰人を講師に迎え、音楽をめぐる青春映画『PARKSパークス』を、音響機器の一般的なセッティングでの上映と、「爆音上映」仕様での上映を比較しながら鑑賞する、「爆音上映」の裏側に迫るイベントを実施しました。参加者はイベント後、『PARKSパークス』本編上映もお楽しみいただきました。

5　YCAM爆音映画祭2019 特別編:密室爆音

開催日:平成31年3月8日(金)～10日(日)
会場:YCAMスタジオC
入場者数:411名(前売1回券一般1,300円他)
上映作品:『ざくろの色』『UFO少年アブドラジャン』『デトロイト』『劇場版どついたるねんライブ』『山中傳奇』他

今回初の試みとして、「爆音映画祭」をミニシアター型のスタジオCで開催しました。上映作品の一部は通常上映であるYCAMシネマでも上映し、「爆音上映」仕様での上映と比較してお楽しみいただきました。限定70席の贅沢な環境で選りすぐりの名作・傑作をお届けする機会となりました。

CINEMA

6　特集上映

会場:YCAMスタジオC
料金:一般1,300円他

山口では上映される機会の少ない映画作品をプログラムの中心とし、作家やテーマ別といったYCAMオリジナルの特集企画の他、文化庁推薦作品などの優れた特集シリーズを巡回上映しています。

●大林宣彦の臨界点

開催日:4月6日（金）～15日（日）の内6日間
入場者数:87名
上映作品:『花筐／HANAGATAMI』

●香港'60／ウォン・カーウァイの'90

開催日:4月7日(土)～15日（日）の内5日間
入場者数:79名
上映作品:『欲望の翼』

●映画の発見

開催日:4月20日（金）～22日（日）
入場者数:83名
上映作品:『ライオンは今夜死ぬ』『LUMIERE!リュミエール!』

●ジャック・ドゥミとミシェル・ルグラン

開催日:4月28日（土）～30日（月・休）
入場者数:211名
上映作品:『シェルブールの雨傘』『ロシュフォールの恋人たち』『ロバと王女』

●温もりのアニメーション

開催日:5月3日（木・祝）～6日（日）
入場者数:172名
上映作品:『ぼくの名前はズッキーニ』『山村浩二 右目と左目でみる夢』『村田朋泰特集 夢の記憶装置』

●仕事and／orレジャー

開催日:5月3日（木・祝）～27日（日）の内9日間
入場者数:168名
上映作品:『苦い銭』『サファリ』『リビング ザ ゲーム』

●家族という悲劇

開催日:5月19日（土）～27日（日）の内5日間
入場者数:113名
上映作品:『ビジランテ』『聖なる鹿殺し キリング・オブ・ア・セイクリッド・ディア』

●声を上げる

開催日:6月2日（土）～10日（日）の内5日間
入場者数:73名
上映作品:『ニッポン国VS泉南石綿村』『BPMビート・パー・ミニット』

●掘るドキュメンタリー

開催日:6月15日(金)～17日(日)
入場者数:98名
上映作品:『ジェイン・ジェイコブズ―ニューヨーク都市計画革命―』『私はあなたのニグロではない』

●命の重さ

開催日:6月15日(金)～7月8日(日)の内7日間
入場者数:98名
上映作品:『女は二度決断する』『あさがくるまえに』

●キュレーターってなんだ?

開催日:6月22日(金)～7月8日(日)の内11日間
入場者数:295名
上映作品:『ザ・スクエア思いやりの聖域』

【関連】トークイベント「キュレーターってなんだ?」
開催日:6月23日(土)
登壇:吉﨑和彦(YCAM)、井高久美子(YCAM)
なかなかわかりにくいキュレーターという仕事について、YCAMキュレーターが語りました。

撮影:谷康弘

●発信し、生きること

開催日:6月28日(木)～7月8日(日)の内8日間
入場者数:101名
上映作品:『素敵なダイナマイトスキャンダル』『ラッカは静かに虐殺されている』

●相米慎二と映画を生きる俳優たち

開催日:7月13日(金)～29日(日)の内12日間
入場者数:662名
上映作品:『翔んだカップル《オリジナル版》』『セーラー服と機関銃《劇場公開版》』『台風クラブ』『魚影の群れ』他

【関連】トークイベント1
開催日:7月15日(日)
登壇:山根貞男
【関連】トークイベント2
開催日:7月22日(日)
登壇:濱口竜介、木村建哉

撮影:谷康弘

●大岡作品を映画で観る―大岡昇平原作映画特集

開催日:8月3日(金)～5日(日)
入場者数:250名
上映作品:『花影』『武蔵野夫人』『野火』

【関連】トークイベント
開催日:8月4日(土)
登壇:塚本晋也

撮影:谷康弘

●歴史を目撃する

開催日:8月9日(木)～12日(日)
入場者数:183名
上映作品:『ゲッベルスと私』『マルクス・エンゲルス』

●想田和弘:観察映画

開催日:8月31日(金)~9月14日(金)の内7日間
入場者数:71名
上映作品:『港町』『ザ・ビッグハウス』

●相撲と女は時代を写す

開催日:8月31日(金)~9月14日(金)の内7日間
入場者数:114名
上映作品:『菊とギロチン』

●見る縄文、知る縄文

開催日:9月7日(金)~28日(金)の内3日間
入場者数:74名
上映作品:『縄文にハマる人々』

●美術と映画1

開催日:9月15日(土)~22日(土)の内4日間
入場者数:274名
上映作品:『ゴッホ~最期の手紙~』『ゴーギャン タヒチ、楽園への旅』『セザンヌと過ごした時間』

●溝口健二監督特集<優秀映画鑑賞推進事業>

開催日:9月27日(木)~30日(日)
入場者数:258名
上映作品:『西鶴一代女』『雨月物語』『山椒大夫』『浪華悲歌』

●三宅唱と濱口竜介:日本映画の現在地

開催日:10月13日(土)~11月25日(日)の内16日間
入場者数:513名
上映作品:『きみの鳥はうたえる』『寝ても覚めても』

【関連】トークイベント
開催日:10月13日(土)
登壇:三宅唱
【関連】トークイベント
開催日:11月25日(日)
登壇:三宅唱+濱口竜介

撮影:田邊アツシ

●愛、女、フランス映画

開催日:10月13日(土)~21日(日)の内5日間
入場者数:68名
上映作品:『つかのまの愛人』『若い女』

●大人も子どももアニメーション

開催日:10月20日(土)~28日(日)の内5日間
入場者数:95名
上映作品:『アーリーマン~ダグと仲間のキックオフ!~』『大人のためのグリム童話 手をなくした少女』

●ホン・サンス:虚実ないまぜのリアル

開催日:11月1日(木)~4日(日)
入場者数:117名
上映作品:『それから』『クレアのカメラ』『夜の浜辺でひとり』『正しい日 間違えた日』

●ポーランド／ブータン／日本:家族の生きる風景

開催日:11月8日(木)～25日(日)の内7日間
入場者数:87名
上映作品:『祝福～オラとニコデムの家～』『ほたるの川のまもりびと』『ゲンボとタシの夢見るブータン』

●アートは誰のもの?

開催日:11月16日(金)～18日(日)
入場者数:129名
上映作品:『世界で一番ゴッホを描いた男』『バンクシーを盗んだ男』

●カイエ・デュ・シネマが選ぶフランス映画の現在

開催日:12月1日(土)～9日(日)の内5日間
入場者数:101名
上映作品:『レット・ザ・サンシャイン・イン』『ジャネット、ジャンヌ・ダルクの幼年期』『プティ・カンカン』『ジャングルの掟』

●日本映画を支えた才能

開催日:12月8日(土)～16日(日)の内5日間
入場者数:221名
上映作品:『教誨師』『止められるか、俺たちを』

●岡本太郎／太陽の塔

開催日:12月14日(金)～23日(日・祝)の内6日間
入場者数:107名
上映作品:『太陽の塔』

●「ゾン」と未確認の映画たち

開催日:12月22日(土)～24日(月・休)
入場作品:105名
上映作品:『ゾンからのメッセージ』『ジョギング渡り鳥』『真昼の不思議な物体』『堀川中立売』『ギ・あいうえおス―ずばぬけたかえうた―』『ギ・あいうえおス 他山の石を以って己の玉を磨くべし』

【関連】舞台挨拶
開催日:12月23日(日・祝)
登壇:柴田剛

【関連】トークイベント
開催日:12月24日(月・休)
登壇:鈴木卓爾、柴田剛

●人はなぜ人を斬るのか

開催日:平成31年1月5日(土)～25日(金)の内10日間
入場者数:178名
上映作品:『斬、』

●フレデリック・ワイズマン特集

開催日:平成31年1月18日(金)～27日(日)
入場者数:130名
上映作品:『ニューヨーク、ジャクソンハイツへようこそ』『チチカット・フォーリーズ』『高校』『霊長類』『ストア』『高校2』『最後の手紙』

●多様な価値観／多様な社会

開催日:平成31年2月8日（金）～15日（金）の内5日間
入場者数:56名
上映作品:『愛と法』

●ざらざら生きる

開催日:平成31年2月8日（金）～3月24日（日）の内11日間
入場者数:181名
上映作品:『アストラル・アブノーマル鈴木さん』『生きてるだけで、愛』

●受験をハックする

開催日:平成31年2月9日(土)～17日（日）の内6日間
入場者数:83名
上映作品:『バッド・ジーニアス 危険な天才たち』

●老いを見つめる

開催日:平成31年2月15日（金）～24日（日）の内7日間
参加者数:464名
上映作品:『ぼけますから、よろしくお願いします。』

●孤高のアーティスト

開催日:平成31年2月15日（金）～3月24日（日）の内10日間
参加者数:201名
上映作品:『バスキア、10代最期のとき』『黙ってピアノを弾いてくれ』『We Margielaマルジェラと私たち』

●アメリカ映画の音

開催日:平成31年3月1日（金）～3日（日）
参加者数:102名
上映作品:『恐怖の報酬《オリジナル完全版》』『A GHOST STORYア・ゴースト・ストーリー』『アンダー・ザ・シルバーレイク』

●YCAM名画座

映画史に残る傑作を上映

vol.15　ルイス・ブニュエル監督特集

開催日:5月11日（金）～13日（日）
入場者数:102名
上映作品:『皆殺しの天使』『ビリディアナ』『砂漠のシモン』『アンダルシアの犬』

vol.16　ベルイマン生誕100周年映画祭

開催日:9月23日（日・祝）、24日（月・休）
入場者数:29名
上映作品:『ファニーとアレクサンデル』

vol.17

開催日:平成31年1月11日（金）～14日（月・祝）
入場者数:181名
上映作品:『暗殺のオペラ』『早春』

vol.18

開催日:平成31年1月5日(土)～14日(月・祝)の内6日間
入場者数:123名
上映作品:『第七の封印』『野いちご』『処女の泉』『仮面／ペルソナ』

vol.19　アラン・ロブ=グリエ　レトロスペクティブ

開催日:平成31年2月1日(金)～11日(月・祝)の内7日間
入場者数:182名
上映作品:『不滅の女』『ヨーロッパ横断特急』『嘘をつく男』『エデン、その後』『快楽の斬新的横滑り』『囚われの美女』

vol.20　ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー

開催日:平成31年3月16日(土)～21日(木・祝)の内3日間
入場者数:61名
上映作品:『13回の新月のある年に』『第三世代』

●金曜夜のYCAMシネクラブ

現代日本の映画作家を紹介する金曜夜限定プログラム

vol.18

開催日:4月6日(金)～5月25日(金)の内7日間
入場者数:75名
上映作品:『アイスと雨音』『チェリーボーイズ』

vol.19

開催日:6月8日(金)～7月27日(金)の内7日間
入場者数:79名
上映作品:『泳ぎすぎた夜』『聖なるもの』『霊的ボリシェヴィキ』

vol.20

開催日:11月2日(金)～23日(金・祝)の内6日間
入場者数:75名
上映作品:『少女邂逅』『いつも月夜に米の飯』

[6] 主な貸館事業

●山口盆地考2018

主催:やまぐち街なか大学
開催日:6月15日(金)
会場:YCAM多目的室

●ロイヤルミルクティー2018年度上映会

主催:山口大学映画製作サークルロイヤルミルクティー
開催日:平成31年1月16日(水)
会場:YCAMスタジオC

[7] 施設利用状況

1 入館者数

月別内訳

月	人数	月	人数
4月	59,593	10月	69,744
5月	62,138	11月	59,806
6月	55,001	12月	55,135
7月	71,742	1月	55,750
8月	107,530	2月	28,593
9月	73,824	3月	42,652
合　計　741,508人			

2 見学・視察件数

月別内訳

4月	136	10月	209
5月	48	11月	96
6月	104	12月	55
7月	11	1月	170
8月	167	2月	59
9月	90	3月	10
合　計　1,155			

3 施設使用状況

施設	開館日数(日)	使用日数(日)	使用率(%)
スタジオA	308	137	44.5
スタジオB	308	267	86.7
スタジオC	308	221	71.8
多目的室	308	183	59.4

※使用率は月ごとの使用率の平均値を記載しています。

[8] その他特記事項

1 アーカイブ事業

内容:例年通り、Webやインフォメーションスペースにおいて、イベントの告知や、過去の作品内容の情報提供に努めました。また、YCAMの活動の具体的な内容や魅力をお伝えするオリジナルコンテンツとして「YCAMイヤーブック」を制作、配布しました。

2 実習生受け入れ状況

●博物館実習
3名(山口大学／福岡大学)
期間:8月6日～13日
内容:教育普及事業運営補助等

2名(山口県立大学)
期間:8月20日～27日
内容:教育普及事業運営補助等

●インターン
1名(アルゼンチン)
期間:4月23日～5月15日
内容:YCAM InterLab課業務補助等

1名(フランス)
期間:7月9日～24日
内容:YCAM InterLab課業務補助等

1名(韓国)
期間:8月1日～29日
内容:YCAM InterLab課業務補助等

2名(情報科学芸術大学院大学／立命館大学)
期間:9月5日～19日
内容:教育普及事業業務補助等

主な関連新聞記事

朝日新聞　2018年5月3日（木）　23面

山口新聞　2018年7月8日（日）　20面

読売新聞　2018年8月18日（土）　13面

朝日新聞　2018 年 8 月 24 日（金）　27 面

毎日新聞　2018年11月7日（水）　21面

中国新聞　2018 年 12 月 23 日（日）　25 面

山口新聞　2019 年 3 月 2 日（土）　17 面

中国新聞　2019 年 3 月 11 日（月）　20 面

〈参考資料〉
山口情報芸術センターの活動成果

6月 大脇理智+YCAM『The Other in You―わたしの中の他者』が展覧会「オープン・スペース2018イン・トランジション」（東京）にて展示

本作は平成29年12月から平成30年3月までYCAMで制作・展示をおこなっていた「The Other in You」が、東京・新宿のNTTインターコミュニケーション・センター［ICC］で開催される展覧会にて展示されました。

6月 『Avatars』が「第21回文化庁メディア芸術祭受賞作品展」（東京）にて展示

YCAMで平成29年2月に開催した展覧会『バニシング・メッシュ』において発表した、菅野創+やんツーのインスタレーション作品『Avatars』が、東京の国立新美術館にて展示されました。今回の展示は、本作が第21回文化庁メディア芸術祭のアート部門において優秀賞を受賞したことにより実現したものです。

6月 大脇理智+YCAM『The Other in You―わたしの中の他者』がコンペティション「PRIX ARS ERECTORONICA2018」にて入賞

世界最大規模のメディアアートのコンペティションの一つである本コンペティションで実施された「Interactive Art+」部門において入賞しました。

7月 「WILD BUNCH FEST.2018」にYCAMブース出展

平成29年10月に開催した「Boombox TRIP in YCAM」のために開発した、U-zhaaan+鎮座DOPENESS+環ROYによるVRライブ映像のほか、インスタレーション作品「The Other in You―わたしの中の他者」のデモンストレーションを展示しました。

2月 映画『ワイルドツアー』が「大阪アジアン映画祭」にて上映

YCAMプロデュースのもと三宅唱監督と共に制作した平成30年8月にYCAMにて世界初公開した本映画が、大阪にて上映されました。

※過去の成果、詳細については、山口情報芸術センターポータルサイト（https://www.ycam.jp/）をご覧ください。

平成30年度
山口情報芸術センター事業報告書

山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : information@ycam.jp
http://www.ycam.jp

［発行］令和元年9月

公益財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : zaidan-info@ycfcp.or.jp
http://www.ycfcp.or.jp/